平成３０年度第２回

（仮称）さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン懇談会

会　　議　　録

日　時：平成30年（2018年）11月６日（火）午後６時30分開会

場　所：ＴＫＰ札幌駅カンファレンスセンター

１．開会

○平本会長　本日もお忙しいなか、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。今回の第２回懇談会の開催に当たりまして、事務局より御報告がございますので、まずお願いいたします。

２．事務局報告

○事務局（芝井政策企画部長）　改めまして、札幌市まちづくり政策局、芝井と申します。前回、欠席させていただいておりまして、誠に申し訳ございません。皆様、本当に今日はお忙しい中、会議に御参加いただきましてありがとうございます。以後、座って御報告させていただきたいと思います。

本日の懇談会につきましては、13 名の御出席をいただいておりますので、配付資料２にあります、本会の要綱第６条第３項に基づきまして、この懇談会が成立していることをまず御報告申し上げます。なお、札幌市医師会の野中部長様は所用により御欠席の御連絡をいただいているところでございます。

また、北海道社会福祉協議会の小原部長様は所用により御欠席となっておりまして、要綱第６条第４項に基づきまして、町田地域福祉課長様に代理出席をいただいております。ありがとうございます。

あわせまして、皆様のお手元にあります資料について御確認をさせていただければと思います。配付資料といたしまして、次第、名簿、懇談会要綱のほか、「圏域の中長期的な将来像と、その実現に向けた主な取組」、その参考資料という束になっているかと思います。過不足などございませんでしょうか。よろしいですか。

それでは、よろしくお願いします。

３．資料説明

○平本会長　どうもありがとうございました。それでは、早速、議事に進みたいと思います。本日の議事は、圏域の将来像、それから、その実現に向けた取組ということでございます。これにつきまして、まず最初に、資料に基づき、事務局より御説明をいただきたいと思います。お願いいたします。

○事務局（石田広域連携担当課長）　札幌市まちづくり政策局政策企画部の石田でございます。私から、さっぽろ連携中枢都市圏における「圏域の中長期的な将来像と、その実現に向

けた主な取組」について御説明いたします。

これまでの間、連携市町村との協議や、札幌市内部での協議を続けてきまして、それらの協議結果や、前回のビジョン懇談会でいただきました御意見を踏まえまして、今後、策定していく連携中枢都市圏ビジョンの骨子や連携事業の全体像をお示ししたいと思います。

資料は２部ございまして、配付資料３という本体の資料と、データ集的な参考資料、配付資料４とに分けておりますが、本体の資料をメインに御説明させていただきます。

まず、本体の資料をおめくりいただきまして、７月に開催いたしました１回目の懇談会で皆様からいただきました主な御意見について振り返りたいと思います。

圏域の目指す将来像を考える際に重視すべき視点と、連携する事業を考える際に重視すべき視点の２つにカテゴライズしております。

まず、将来像に係る御意見ですが、札幌圏の北海道、日本、世界での位置付けを考え、この圏域の役割がどうかということ、また、新幹線が開業する 2030 年以降も見据えた長期的な目標や、圏域のあるべき姿を共有することが必要ではないか。この御意見は、皆様共通の御意見であったというふうに認識しております。

また、自己満足ではなく、外から見たときに、投資できるか、住みたいかというような、選ばれる圏域になるためにはどうしたらよいかという視点。

また、この圏域は、やはり北海道ならではといいますか、広域分散型の地域といえるかと思います。都市機能とネットワークを考える際には、空間的な視点からの検討も必要ではないか。

また、札幌市も含め、市町村単独ではできないことも、農業や観光など、各市町村の持つ強みを活用し、連携することで、可能性が広がり、相乗効果でメリットを上げていくことが重要ではないか。

高齢化が進んでいく中で、介護や地域医療サービスという生活分野も大事な問題でありますが、これらのサービスをいかに住み慣れた地域で受け続けられるか、どのように考えるかという大きなくくりの中での御意見をいただいたところです。

次に、事業に結びつく御意見ですが、まず、後継者がなかなかいらっしゃらないという現状を踏まえまして、創業、事業承継、継業という三つの柱で検討する視点も必要ではないか。

また、この圏域には、新千歳空港や丘珠空港、石狩湾新港や小樽港といったような交通の要衝がありますので、これらを活用した販路拡大の視点が必要ではないか。

また、いつまでたってもジンギスカンでは、ビジターを世界中から呼ぶのは難しい。この圏域には特徴ある食材やワイナリーもありますので、それらを組み合わせて、食や観光など、新たなコンテンツを生み出せないか。

また、圏域の小売店だとか宿泊業など、さまざまな分野のオープンデータの収集、分析など、ソフト面でのインフラというようなＩＣＴの活用が必要ではないか。

また、学生に残ってもらうということももっともだけれども、１回外に出ていった人を、Ｕターンでスキルアップした人材として呼び戻すという発想があってもいいのではないか。

札幌市に通勤・通学している人が多いのであれば、逆に連携市町村の強みを生かして、札幌市からの通勤・通学者を増やすということがあってもいいのではないかというような、事業を考える際に大変参考となる御意見もいただいたところでございます。

１枚おめくりください。

この圏域の現状や課題、連携市町村との協議、ビジョン懇談会での意見などを踏まえまして、この圏域の活性化に向けて、力点を置いて取り組んでいくべき３つの重点分野を設定いたしました。

１枚おめくりください。

ここからは、それぞれの重点分野を設定するに至った現状、背景や、施策の方向性について御説明いたします。

まず、魅力、活力にあふれ、投資や人材を呼び込む圏域です。

ここではデータの説明を割愛いたしますが、必要に応じて参考資料、配付資料４もご覧いただければと思います。

まず、現状といたしまして、圏域外収支はマイナス 3,500 億円ほど、参考資料でいいますと２ページ目になります。全体としては、圏域外から稼ぐ力が弱い状況である上、配付資料の３ページになりますが、新規求人倍率も 1.0 を上回っております。景気が好転しているともいえるのですが、一方で人手不足の状況であるというのも現状かなと思います。

また、そのなかで、従業者数が大きく、付加価値額が高いのは卸売業、小売業、医療・福祉、製造業、こちらは参考資料４ページになります。

次に、参考資料の５ページ目から８ページ目なのですが、圏域内の多くの市町村において、当該産業に対する新たな需要が全産業に与える影響の大きさを示す影響力係数は、食料品製造業や農業が高い。また、逆に影響を受けやすいのが感応度係数ですが、引っ張られるという意味で、当然なのですが、卸売業や運輸業などが、感応度係数が高くなっている状況

にあります。

あわせて、観光客の入込客数も増加傾向、こちらは参考資料９ページ目になります。空港や港などの交通の要衝や、工場用地の集積もありまして、石狩湾新港では洋上風力発電を生かした水素の製造、供給拠点化に向けた取組も進展していると。

こういった現状から、施策の方向といたしましては、従業者数が多く、付加価値額が大きい上、影響力係数も高い食関連産業を伸ばす、また、感応度係数が高く、圏域外から稼ぐことのできる卸売業や運輸業にも相乗効果があるのではないかと思います。

また、外貨を稼ぎ、客数が増加傾向である観光関連産業を伸ばすことに加えまして、各市町村の強みを取り入れることも必要というところから、国内外から投資や人材を獲得し、お金や人が循環する強い経済圏域を目指すとともに、チャレンジできる風土を醸成し、新たな産業を生み出しやすい環境づくりを進めていきたいと考えます。

１枚おめくりください。

将来を担う人材が豊富な圏域です。

１回目のビジョン懇談会の資料でもお示ししましたが、本圏域は大学や研究機関などが集積しているという強みがあります。

しかし、圏域人口は今後減少していくことが想定される上、2010 年に 20 歳から 24 歳であった層の人口が、2015 年には 1.5 万人減少していると。こちらは参考資料の 10 ページから 11 ページでございます。

その上、参考資料の 12 ページなのですが、ほぼ全ての産業の労働生産性が全国を下回っているという状況にあります。

したがいまして、施策の方向性といたしましては、労働生産性の向上も含め、社会や企業等のニーズに対応できる人材の育成が急務であるとともに、教育活動の充実に向けた取組を推進することなどにより、地域に愛着を抱き、圏域を支える人材の育成を進めていきたいと考えます。

１枚おめくりください。

重点分野の三つ目なのですが、住民の安全・安心を確保し、持続可能な行政サービスが提供できる圏域です。

最近では、北海道胆振東部地震が発生しました。

また、本圏域は、札幌市を中心に、高度医療機関等の都市機能が集積しています。

さらに、行政の立場から見ましても、人口減少、少子高齢社会の到来による労働力や税収

の減も懸念されます。

したがって、施策の方向性としましては、災害対策の充実や地域医療の確保などの生活関連分野における課題に対応するとともに、公共施設の相互利用などの効率的な行政運営の取組を推進することも重要だと考えます。

１枚おめくりください。

こちらは、ただいま御説明しました３つの重点分野と施策の方向性について整理したものになります。

下段になりますが、我々といたしましては、これらの重点分野に取り組んでいくことにより、圏域内のさまざまな資源をつなぎ、その魅力を発信し、圏域の求心力を高める、ヒトやモノの流れの活性化、さらなる外需獲得や人材の流入、イノベーションの創出など、こういった相乗効果、好循環を引き起こすことによって、最終的には、一番右になりますが、この圏域の北海道における位置付けを考えますと、道内経済を牽引していくという視点も重要かと考えます。

１枚おめくりください。

ここでは、北海道、国内外におけるこの札幌圏の目指すべき将来像に係る考え方を述べたいと思います。

将来的に、圏域内でヒトやモノ、カネの循環やイノベーションが起こり、国内、海外から外需の獲得や人材の流入を促すとともに、先駆的な取組を受容していきます。　北海道内へは、道内経済を牽引するとともに、道内における先駆的な取組の旗振り役となっていく。国内、海外へは、魅力、活力の発信や販路の拡大、誘客促進など、国内外における圏域の存在を高めていく。

これらの好循環の結果、投資したくなる、住みたくなる、選ばれる圏域という視点を重視しながら、目指す将来像といたしましては、構成市町村がそれぞれの特徴を生かしながら、密接な連携と役割分担のもとで、一つの経済圏域を形成し、道内経済をけん引していくということを掲げたいと考えております。

１枚おめくりください。

ここからは、これまでお示ししましたこの圏域の将来像に向けて、取り組んでいく事業の全体像について御説明していきます。

これらの事業は、各市町村のニーズや札幌市からの提案などをベースに、ビジョン懇談会でいただいた御意見も参考にしながら、これまで協議し、整理してきたものとなります。

この施策体系としましては、総務省が定めている要綱に沿って、３つの役割、経済成長のけん引、都市機能の集積、生活関連サービスの向上ごとに整理しております。なお、この事業に黒丸がついている事業は、全市町村連携を札幌市として想定しているものでして、今後、各市町村との調整の結果、変更となる可能性があることを申し添えます。

まず、「圏域全体の経済成長のけん引」ですが、取組の１つ目、「経済戦略の策定、体制整備」として、「１　連携事業の企画、立案、効果検証等」であります。

この事業の概要としましては、圏域形成後も開催いたしますビジョン懇談会や首長会議等において、事業の効果検証や、今後必要となる新たな事業の企画などを行って、このビジョンを深化させていきたいと考えております。

続いて、「戦略産業の育成」の取組については、４つの事業を想定しております。

まず、「２　連携した企業誘致の推進」ですが、札幌市が行う企業立地の動向調査の結果の共有や、現在、札幌市に隣接している小樽市さんや石狩市さんなど、７市町村を対象とした企業立地補助金なども活用しながら、連携して、工業団地などの資源を生かしつつ、企業誘致を図っていこうというものです。

次に、「３　創業の促進」ですが、圏域でのチャレンジできる風土の醸成に向けて、若年層を対象とした起業体験プログラムの提供など、創業機運の醸成に向けた取組や、経営者と創業希望者のマッチングを図るといった取組の検討などを進めていきます。

次に、「４　新産業の育成に向けた支援」については、ノーステック財団や産業振興財団が行っている、圏域の強みである食などの分野での新製品、新技術開発等に対する支援を圏域に拡大していくことなどを想定しております。

次に、「５　産学官連携に関する体制の検討」ですが、これは企業の技術開発などの相談を受け、大学等につなげていくＲ＆Ｂパーク大通サテライト、通称ＨｉＮＴの活用などを、連携市町村の意見も交えながら考えていこうというものです。

次に、「地域経済の裾野拡大」の取組ですが、２事業を想定しております。

まず、「６　地域資源の活用に向けた支援」ですが、今年度から総務省の委託事業を活用して試行的に行いますが、既存の札幌スタイルという札幌の都市イメージを活用した地域ブランドを活かし、雪まつり会場で、圏域内の食やクラフト製品の催事出展を行ったり、２次産業者と３次産業者が連携して行ういわゆる６次産業化の取組を、この圏域の強みである農産物を生かしていこうという事業です。

次に、「７　販路拡大に向けた支援」ですが、札幌市内の卸売業と連携市町村の食品メー

カーとの商談会の開催や、国内外でのフェアに圏域内の事業者と共同で出展するなど、港や空港を生かした国内外への販路拡大も圏域全体で進めていければと考えております。

次に、「戦略的な観光施策」の取組です。

まず、「８　共同プロモーションや観光資源の活用等の推進」です。これは、圏域の強みである観光分野において、ツーリズム連携など、連携市町村による協議会方式で具体の事業をこれから検討していきたいと考えております。

また、「９　ＭＩＣＥ誘致の推進」ですが、インセンティブツアーなどのＭＩＣＥ招聘事業に係る連携や、中島公園駅周辺に予定している新ＭＩＣＥ施設を活用することなどを想定しております。

１枚おめくりください。

「高次の都市機能の集積・強化」です。

まず、「高度な医療サービスの提供」の取組につきましては、「10　三次救急等の高度な医療サービスの提供」としまして、道央医療圏における市立札幌病院による３次救急医療の提供を位置付けております。

次に、「高度な中心拠点の整備等」の取組については、「11　都心アクセス強化に係る検討」や、「12　丘珠空港の利用促進」、「13　札幌市都心部の再開発」の３事業を位置付けております。

次に、「高等教育機関の集積を活かした人材の育成」の取組については、「14　社会や企業等のニーズに対応できる人材の育成」としまして、連携市町村も含んだ地域の課題に対して、札幌を中心とした学生の力を活用することによる課題解決に向けた取組や、医療、ＩＴ、経営分野の学生チームによるビジネスプランの作成等に係るプログラムの実施など、若者の柔軟な発想を活かすような取組を検討しています。

次に、「その他の高次の都市機能の集積・強化に関する連携」の取組としまして、「15　公共施設の相互利用や配置に関する検討」です。今後、施設の更新等を見据えまして、調査研究や協議を行っていこうというものです。具体の施設はまだないのですが、これも連携市町村と情報共有や意見交換をする中で調整していくべき大事な取組だと認識しております。

１枚おめくりください。

ここからは、生活関連機能サービスの向上に係る役割についてです。

まず、「地域医療」の取組ですが、「16　救急医療の維持・向上等に向けた取組の推進」といたしまして、救急医療の適正利用に向けた各市町村との意見交換や、現在、救急医療相談

に対する電話相談窓口、救急安心センターさっぽろの利用拡大を検討していきます。

次に、「福祉」の取組ですが、「17　保育士不足対策に関する検討」や、「18　生活困窮者自立支援法の任意事業に関する情報共有等」として、就労支援だとか、子供の学習支援といったような任意事業に関する意見交換などを想定しております。

次に、「教育・文化・スポーツ」の取組ですが、「19　特色ある教育活動の充実に向けた取組の推進」では、農業体験受入れ可能団体のリストを作成し、圏域内の小学校で共有することによりまして、より幅広い農業体験の機会を提供していくことを想定しています。

「20　文化的な教育活動の充実に向けた取組の推進」につきましては、これまで札幌広域圏組合で実施してきました圏域の小学生に対する札幌コンサートホール Kitara での音楽鑑賞会を継続実施することを想定しております。

「土地利用」の取組につきましては、「21　都市計画に係る情報共有」や、「22　雪堆積場の共同活用」として、現在、石狩市さん、北広島市さんと札幌市の間で相互に活用している雪堆積場の取組を、他市町村のニーズにあわせて拡大できないか、検討を進めていきます。

「地域振興」の取組については、「23　にぎわいの創出」としまして、現在、各区で行っている近隣市町村との連携イベントを想定しております。

「24　女性活躍の推進」につきましては、札幌市が実施いたします女性応援フェスタのプレイベントを圏域内の大学において実施することを想定しております。

１枚おめくりください。

次に、「災害対策」の取組についてです。

「25　災害に備える連携の推進」としまして、災害や防災に関する情報共有や、「27　災害における連携の推進」ということで、災害時における応援体制の取組を進めていきます。

１つ戻りまして、「26　消防の連携、協力の推進」ですが、現在、共同で運用、整備している消防救急デジタル無線や、消防指令システムの共同運用について検討を進めることを想定しております。

次に、「環境」の取組については、「28　廃棄物対策における連携の推進」だとか、「29　廃棄物等の共同処理」として、石狩市さんや当別町さんから受け入れている、し尿の処理などを位置付けております。

「30　再生可能エネルギーの圏域内導入拡大に係る検討」といたしましては、圏域の特徴であります風力発電に伴う余剰電力を活用し、貯蔵性のある水素エネルギーの活用について、サプライチェーン構築に向けた実証などを想定しております。

次に、「ＩＣＴインフラ整備」の取組ですが、「31　遠隔会議システム等の検討・導入」や、「32　オープンデータプラットフォームの共同利用等」として、札幌市ＩＣＴ活用プラットフォームの共同利用や、職員スキルの向上に関する取組を想定しております。

そのほか、「連携による地産地消」の取組として、圏域内の農産物リストを共有し、学校給食で、食育といったような観点も絡めながら、「33　圏域内農産物の消費促進」を図っていきたいと考えております。

１枚おめくりください。

「交流・移住促進」の取組です。

まず、「34　地元定着等の促進」についてです。これは、首都圏における合同企業説明会や、高校生を対象とした仕事体験のイベント、また、高齢化が進む圏域において、シニア層を対象とした圏域内企業の体験つき仕事説明会の開催を想定しております。

「35　圏域外からの移住促進」としましては、これまでも札幌広域圏組合で実施してきました移住イベントの開催などを、「36　札幌ＵＩターン就職センターの広域的利用」については、今年度から総務省の委託事業を活用して試行実施しておりますが、ＵＩターン就職センターの利用拡大や、インターンシップに係る学生への交通費補助などを想定しております。

次に、「その他結びつきやネットワークの強化に係る連携の取組」として、「37　企業による住民活動の促進」ですが、札幌市が包括連携協定を締結している企業さんとの協定を圏域全体に拡大できないかなどといった検討を進めていきます。

その他、「人材育成」等の取組として、「38　職員研修の合同実施等」や、「39　職員等の交流」を進めていきたいと考えております。

１枚おめくりください。

これまで御説明してきました事業について、この圏域の強みという観点から見た場合、どう位置付けられるか、整理してみました。

食や農業といった強みを生かした事業については、新産業の育成や地域資源の活用に向けた支援など、その他、観光、工業団地、交通インフラ、知の集積、再生可能エネルギーといったような観点から事業を整理したものがこちらになります。

１枚おめくりください。

こちらは、これまでの施策体系について、重点分野との関係について整理したものになります。ただいま御説明したのは、総務省の要綱にある事業体系に沿って御説明させていただいたもので、これが横軸というところの役割や分野で網羅的に整理したものです。

一方、前段で御説明してきた重点分野といたしましては、全事業の中から重点分野に資する事業として、縦軸で力点を置くべき取組として抜粋される形になるかと思います。そして、将来像としては、道内経済を牽引する経済圏域の形成ということで整理したいと考えております。

１枚おめくりください。

ここでは、国立社会保障・人口問題研究所、いわゆる社人研が推計した将来人口と、各市町村の人口ビジョンにおいて設定しております目標人口の比較をしております。

一番下の将来人口推計は、2013 年３月、平成２５年に社人研が推計した将来人口であり、厳しめに見られています。次に、青色の線が 2018 年、ことし３月に発表された将来人口であり、上方修正されております。次に、緑の線ですが、これは 2013 年の社人研推計をベースに設定した各都市の人口ビジョンにおける目標人口の合算値であります。

今後、策定するビジョンの中には目標人口を設定しなければならないのですが、これらを参考に目標人口を検討していこうと考えております。

１枚おめくりください。

最後に、今年度の今後のスケジュールについて御説明いたします。

本日、２回目のビジョン懇談会を行いまして、今回いただく御意見も参考にして、ビジョン本体の素案をつくっていきます。

１月ごろに開催予定の３回目のビジョン懇談会において、最終的なビジョンの素案をお示しさせていただきまして、ビジョン案を完成し、その後、パブリックコメントや議会議論も経ながらビジョンを策定いたします。

その一方で、11 月下旬に、緑色の枠にありますが、札幌市が連携中枢都市宣言を行い、札幌市も含めた各市町村の来年の１定の議会におきまして、連携協約の議案を上程し、議決を経まして、協約の締結、ビジョンの公表を来年３月に行いたいというふうに考えております。

４月以降に事業実施と、今後は年１回程度、ビジョン懇談会において、事業の効果検証や新規施策の検討などを行っていき、このビジョンを深化させていきたいと考えております。

私からの説明は以上となります。

○平本会長　どうもありがとうございました。それでは、ただいまの御説明に基づきまして、意見交換等をしたいと思いますので、どなたからでも結構です、御発言いただければと思います。いかがでしょうか。

○津呂構成員　意見として、まず、２の圏域全体の中長期的な将来像はかなりまとまっているのかなと思います。域内では、ヒト、モノ、カネの循環を回していくと。これが経済の活性化になるということはもちろんだと思います。

そういった中で、ヒト、モノ、カネが動くということは、情報も動いてくるということになります。それがこちらに参画している市町村がどう分析して、次のステップにどうつなげていくのか、そういう組織体系もつくって、将来的に、もう５年、10 年後には新たなデータをもとにして続いていくという方向も何か組織化していただければ、よりよくなるのではないかなと思います。

それと、国内、海外からの、下の段ですけれども、人材の流入、もちろん移住してきていただいた優秀な人材が北海道に来ていただければ、北海道は活性化しますけれども、先ほどの御説明のあった、大学生になったときには、札幌圏域の人口が増えると。ただ、大学を卒業した後、もしくは札幌の企業に勤めて２、３年の方の年齢、25 歳から 29 歳の方が一気に出ていくということで、来られる方も大事ですけれども、なぜ大学生が就職をしたのにさっぽろ圏から離れていくのだろうということで、今回、定量的なデータを見せていただきましたけれども、これはやはり定性的な要因分析的なものをして、それを押さえることによって相乗効果が出てくるのかなという感じもしますので、できれば、本当は大学生なりにいろいろな形で追跡アンケートがとれればいいのでしょうけれども、そのあたりは無理だと思いますので、優秀な人材を残すということであれば、流入も含めて、そして卒業して、何人いるかわかりませんけれども、札幌圏から離れていった方々の要因を分析して、こちらのほうにもし書けるのであればよろしいかなと思っています。

また、あと１点でございます。同じく８ページなのですけれども、私も常々思っておるところでございます。北海道、152 の商工会、地域がございます。そして、北海道内へということで、発信ということでしょうか、道内経済のけん引役にこのさっぽろ圏がなるのだと。やはりこの中枢都市圏が発展することによって、周りの道南、道北、道東が活力を得られると。ここに集まってくることによって、またストロー現象という形も出るかもしれませんけれども、逆にそういった地域に観光客なり人が流れていくというような好循環の経済環境をつくっていただければありがたいなと思っております。

とりあえずこの３点ということで、よろしくお願いいたします。

○平本会長　どうもありがとうございました。何かコメントございますか。

○事務局（芝井政策企画部長）

ありがとうございました。３点あったと思いますけれども、ヒト、モノ、カネに伴って情報も動くので、そういった分析をして、さらなるステップアップにつなげてということで、そのとおりだと思いますので、我々もこの組織、連携中枢都市圏専任の職員も、今、課長以下３名体制で、私を入れると４名になるのですけれども、来年以降もそういう体制を維持、強化していって、そういう調査研究機能もやはり充実していかないといけないなと思っています。

それから、人口の流出のお話がございました。大学の卒業後、あるいは就職してから若年層が流出するということで、そこについては、札幌市単独の中では、未来創生プランという人口ビジョンの中である程度の要因分析をしておりまして、その中の主な要因というか、要因の一つは、理系人材の大学卒業後の働き先がなかなか多くはないということもあるのだろうなと思っております。

ただ、先ほどの市町村全体の分析というところにもつながるのですけれども、一緒の圏域になったあかつきには、さらに圏域全体の流出原因なりをもうちょっと調べて、次のステップにつなげていきたなというふうに思います。

それから、３点目の中枢圏が発展することで活力が出るだけでも、観光客がその他の地域にも回っていくといったようなこと、そういったことも念頭に置いて、この圏域だけということではなくて、北海道全体の発展につなげられるように、そういう視点を持って進めていきたいと思います。

いただいた意見、吟味して、これからの中に生かしていけるように頑張っていきたいと思います。

○平本会長　どうもありがとうございます。他に御意見ございましたら、どうぞ御発言ください。

○李副会長

11 ページの一番上の地域医療のところです。ちょっと医師会の方が今日お見えになっていないようなので、一言コメントをさせていただきたいなと思ったのですけれども、１つちょっと気になるのが、やっぱり地域医療とか、今、地域包括ケアシステムを構築するというのは、地域連携とか、そういうのは多分、これから 2025 年問題を考える中で、国の多分一番目玉の施策だと思うのですけれども、その中で、札幌というのは、多分、もちろん一番医療圏が充実している地域であるのですが、例えばほかの市町村、連携されているところというのは、そこまで充実されていないなかで、これが全市町村の連携想定事業になっていない

ところがちょっと１つ気になったので、ぜひそこらへん、丸を入れてほしいなということ。

あとは、今、実は私、小樽に住んでいるのですが、小樽にも、多分、200 床以上の総合病院が四つあるのですが、それでも小樽から札幌に通う患者さんの数は、多分全体の４割ぐらいいらっしゃるのです。ということは、他の地域とか、他の町村などはさらに厳しい状況だと思いますので、これから地域を連携しながら、当然、いろいろなことを、例えば患者さんのデータを共有化するとか、いろいろなことも想定しつつ、こういう連携が必要だと思うのですけれども、そういったものもぜひ、札幌だけではなくて、札幌を中心とした医療サービスを充実化するという意味で、広域連携をぜひ取り組んでほしいなと思いました。

○平本会長　ありがとうございます。今の前半でありました、全市町村連携想定事業になっていないのはどうしてかというような、多分これはいろいろ、医療なので、制度的な理由もあるのではないかと想像するのですけれども、何かもし御回答があれば。

○事務局（芝井政策企画部長）

救急安心センターさっぽろの運営につきましては、複数の市町村さんにもお使いいただいているのですけれども、受益の範囲内で負担をいただいているということがあります。ですから、そこの負担の議論をもう少し詰めていかないと、連携をさらに増やすということは、ちょっと考えないといけない状況です。

やはり福祉、地域包括ケアも福祉とかの分野で、医療、福祉というのは受益と負担の関係がきわめてわかりやすい単位でつくられているのです。例えば介護保険などというのは特別会計というものを使って、保険料で運営していくということなので、今のままの制度の枠組みでは、そのまま広域に広げるということは少し難しさがあるのかなと思っているのですけれども、例えば国民健康保険などは北海道全域に広域化したという、そういう実績もありますので、そうしたことは、今後の制度の推移などを見据えながら、ぜひ前向きに考えていきたいと思っています。

○平本会長　ありがとうございました。おっしゃるとおりでして、多分、連携することで、効率が上がって、トータルのクオリティが上がるということでしたら、連携の方向を探るということが重要なのではないかなというふうに考えますので、よろしくお願いいたします。

○酒井構成員　私から何点かあります。14 ページで、今回、圏域の強みを生かした事業をわかりやすく整理していただいて、非常に見やすくなったと思うのですが、もう１つのお願いとすれば、食、農業、観光、工業団地だとかインフラだとか、今回、せっかく中枢都市圏の中にいろいろな市町村があって、こういう強みで構成されているということなのですが、や

はりそれぞれの市町村がどういう強みや特徴を持っているかや、それぞれの位置関係がわかるような資料となっていると、よりこの中枢都市圏というものが見えてきて、その強みというのをどうやって生かせるのかというイメージもわきやすいのかなというのがございまして、資料のつくり方として、そのへんをお願いできないかなということがございます。

それと、前回、私、発言させていただいて、入れていただいた項目と重なっていると思いますが、オープンデータのプラットフォームのところでございまして、ここの表現として、各自治体が提供するデータの利用拡大、多様化に向けた札幌市ＩＣＴ活用プラットフォームの共同利用ということになってございます。これはもちろんこのとおりなのですけれども、自治体が提供するデータももちろん非常に重要でございますが、今回、このプラットフォーム事業を今進めておりまして、小売業であったり、宿泊業であったり、こうした民間のデータの相互活用、特にインバウンド客がどのようなルートでどう来て、どんなものをどう買っているのかというようなデータが非常に有効であるということが、今、研究の中でわかってきております。観光客というのは広域的に動くものだというふうに考えておりますので、ぜひこのプラットフォームを活用したデータの活用を、まずは連携中枢都市圏で広げていくということにつなげていきたいので、そのへんの記述が若干加えられると非常にありがたいかなというふうに思います。

あとは、もう１点、高等教育機関の集積を生かした人材の育成、まさにこの中枢都市圏、札幌市もそうですけれども、小樽であったり、恵庭であったり、千歳であったり、非常にさまざまな特徴を持った大学がございますし、特に江別市さんでは、集積している大学間での単位互換というようなことも取り組んでいたりされております。今回、こうした観光であったり、食であったり、この圏域の強みというものをぜひ特徴として出すような学びのコース、そういったようなものの単位互換を大学間でしながら、この圏域の強みというものを逆にといいますか、学生たちに来てもらって、学んでもらって、それを発信していくというような取組につなげられていけばなというふうに思いまして、ぜひそのへんも、平本先生もいらっしゃいますので、御検討いただけないものだろうかということでございまして、御提案させていただきたいと思います。

○平本会長　どうもありがとうございます。一番最後の大学間の単位互換というのは、実は制度としてはいろいろなところであるのですけれども、実際、それがうまく機能するかどうかいうことはまた別の問題で、逆に大学間、単位互換で学生が交流するようなプログラムをきちっとつくっていくということが、恐らく大学側のミッションなのではないかなというふ

うに思いました。宿題とさせていただきたいと思います。どうもありがとうございます。

何か今のことにつきまして、簡単なコメントございますか。

事務局（芝井政策企画部長）

先ほどの市町村の強みをもう少しわかりやすくということで、それは考えていきたいと思います。確かに視覚的にわかっていたほうが議論も進むのではないかなというふうに思いました。

それから、民間データのオープンデータの関係ですけれども、いただいた御意見をもとに、工夫していきたいと思います。考えさせてください。

○平本会長　ありがとうございます。他にも、御自由に御発言をいただければと思います。

○福井構成員　まず、李先生のお話、医療の件、やはりこの圏域で重要な部分、あるいは強みというのは、医療が１つと思います。札幌の医療体制をどううまく使っていくかというところは、今後、非常に大事になってくると思います。札幌の医療機関から各自治体が、例えば１時間圏内でどのぐらいまでカバーできているのかというのを実際調べていただきたい。もしカバーしきれていない部分があるのでしたら、例えばそれがインフラなのか、病院なのか、立地的なものなのか。１時間以内の救急搬送というのは救命では非常に重要な時間になりますので、今の状況でどれだけ網羅できているのか、あるいは将来的にどこまで網羅できるのか、そういった部分も視覚的に調べていただけると非常にわかりやすいと思います。

私どもも、地方の病院で、救急搬送の時間がどのぐらい、例えば高速道路の整備によって短縮するかというのを図式化したこともあるので、そういったものをぜひお願いできればと思います。

もう１点、さっぽろ圏の強みは、やはり学だと思います。人材育成という部分もありますけれども、産業、新産業の部分も、やはり学校をどう上手く使うか、学生を上手く使うか、ちょっと言葉は悪いのですけれども、使い倒してなんぼだと思います。これは企業側にとっても、学生さん方に地域を知っていただく、企業を知っていただくには、普段から関わっていただく必要があると思います。私も人材確保の件で３年ほど大学の方々と、キャリアセンターの方々とおつき合いさせていただいていますが、早い段階で地域とつながる、企業とつながるというのは大事なことと思います。学校をどう上手く使っていくかというところが、今後の新たな戦略ですとか取組につながっていくのではないかなと思いますので、大学、学校をうまく使うという部分をもう少し強く作っていただきたいと思います。

○平本会長　ありがとうございます。学校を上手く使うということは、私も大学にいる人間

として、そのとおりだなと思うのです。昔は何となく大学というのは門戸を閉ざすという感じだったのですけれども、今、どこの大学も大体お金がないので、意外とオープンになるのではないかなというふうに思っています。

医療の件、１時間圏内のカバー率とかということに関してはいかがですか。

○事務局（芝井政策企画部長）　ありがとうございます。まず、救急搬送のお話ですと、総務省、消防庁の方で、消防力の基準というのを定めておりますので、その中で、何分以内に到達できるような消防署、救急救命隊の配置がされているはずなのです。その上で、病院としてどこに搬送するのかというのは、全道で医療計画が定められておりまして、その圏域ごとに医療機関があるので、基本的には大丈夫なように作っているというふうに私どもは理解をしておりますけれども、いただいた、やはり視覚的にわかりやすくというお話もありましたので、ちょっと我々、単独でどこまでできるかわからないのですけれども、少し頑張ってみたいと思いました。以上です。

○平本会長　どうもありがとうございます。ほかに御意見ございましたら御発言いただければと思います。

○吉岡構成員　３つほど。ある意味、ちょっとベタな話なのですけれども、６ページの、今回、タイムリーに地震があった関係で、結果的に広域の連携というのは必ず補完関係で見られると思いますので、それも検討の中に入れていくと、まさに広域連携のメリットが出るのかなと。特にＢＣＰの関係が、やはりここら辺になりますと、新聞報道等で見ているだけなのかもしれませんけれども、今回の一番被災の強かったエリアのところは、ふるさと納税の納付事務を、連携している都市さん、他のまちがやられて、立ち上げが早く、お金の融通ができるようになっているとかというのもありますので、そういうこともぜひ、まさに広域連携ではできるのかなと。これだけ距離があると、必ず、当然被害にも差が出ますので、そうすると、お互いそこをつくっておくと、立ち上がりが早いのかなというのは、非常に今回の件で感じました。

それと、10 ページに、これはちょっと我々の個人的な話かもしれませんが、12 番に丘珠空港の利用促進が出ておりまして、我々も非常に道内外を含めて出張で交通機関を使いますので、ぜひこちらがもっと使い勝手がよくなると、より周りの、それこそ先ほどのヒト、モノ、カネ、情報ではないのですけれども、交流がもっと効果的にというか、なっていくのではないかというふうに思いました。実際、札幌市さんが今、いろいろと丘珠関係をやられているという話も拝見しておりますので、ぜひそちらを前向きに広げていただけると、ものに

なるのかなと思っております。

それと、最後に、学の話は皆様の話に私も非常に賛成でして、特に例えば医学部とかというのは、いろいろなことをやられている話が結構あります。ただ、若干、惜しむらくは、医学を研究するための、それに必要なほかの集積というのがまだまだ足りないのかなと。その背景には、その関係の方々とお話ししますと、どうしても情報発信、こういうことをやっていますよという情報発信が少ないと言われるのですけれども、そういうあたりのことも、広域というか、やっぱりある程度のボリュームの中でやっていくというのも発信力があっていいのかなと思います。

○平本会長　どうもありがとうございます。これもコメントございますか。

○事務局（芝井政策企画部長）

災害については、今、若干位置づけてはいるのですけれども、連携協定なり、災害のときは協定をお互い既に結んでいるのですけれども、それに基づいて協力し合うということがまずベースにありますので、それに加えて、今後、どんなことができるかというのは考えていきたいなと思います。丘珠空港については、現在、その議論をやっておりますので、いただいた貴重な意見を踏まえて、今後さらに検討を深めていきたいと思っています。

医学部の情報発信などについても、札幌市の中、この圏域は医学部としてもかなり集積度合いがあって、確かにさまざま札医大の再生医療とか、全国に打って出られるような技術などがありますので、そうしたもうかなり有名になっているものもさることながら、これからのものについても、我々にできることは情報発信の御協力をしていきたいと思っております。

○平本会長　ありがとうございます。ほかにあれば、どうぞ。

○沼田構成員　一番最初に津呂さんの言ったお話と関連して、確認も含めてなのですけれども、17 ページのスケジュールを見ると、今日はビジョンの掲載事業の素案を完成して、12 月から詳細、役割分担と書いてあるのですけれども、私は１点だけ、運営組織の件でちょっと確認なのですけれども、要はビジョンですから、ビジョンがあって、それからＰＤＣＡと流れるのでしょうけれども、そのビジョンをどういうふうに運営していくのか。これを見るだけでも、中長期ですけれども、おなかいっぱい、ものすごいことが書いてあって、これをどのような組織が運営したり管理したりしていくのか。その運営する組織は、小さな組織もあれば、その小さな組織を束ねて大きな組織になって、全体としてどうなのかと、組織の中にも役割分担があると思います。それが 12 月に多分やるというふうに、このページを見て理解

しているのですが、きょうの段階でいくと、９ページの一番上の連携市町村首長会議ぐらいしか運営組織たるものが出てこないので、ビジョンの中にも、やはりこれをどういうふうに運営していくのかというようなことを、１月には期待したいと思います。

そうなると、15 ページの、多分事業体系の全体のイメージがあって、これをどのように運営組織が関与していくのかなという、ここに記載されている大きな運営組織の取りまとめする役割の運営組織はここに記載されてくるのかなというふうなことをちょっとイメージしながら、今日は確認も含めてなのですが、聞いておりました。

○平本会長　どうもありがとうございます。今のは、実はとても重要な御指摘だと思うのです。

○事務局（芝井政策企画部長）　運営組織というのは、先ほども少しだけお話ししたのですけれども、札幌市の中に今、広域連携担当という、課相当の組織を課長以下３名で作っておりまして、そこがこの連携中枢都市圏の札幌市におけるヘッドみたいな扱い、企画、立案、調整をする役割だということです。

先ほどいろいろ多岐にわたる事業を御覧いただきましたけれども、これのほとんどの事業は、札幌市が、ほぼ、ですけれども、主体になって進める事業になるかと思いますけれども、それは広域連携担当という頭の部分の企画、調整のもとに、札幌市の各事業部局、担当部局がやっていくという、札幌市における組織体制はそういうふうになるかと思います。

この全体の取組は、札幌市に比較的大きな額で地方交付税という国のお金も一定程度の額が来るのですけれども、それを原資として、先ほど言ったヘッドの部分と手足の部分が動いていくのですけれども、一方で、連携先の市町村とは、札幌市と協約という形で、これこれを協力してやりましょうということでやることになっていまして、その部分は、相手方の市町村のほうは市町村の連携担当部局がありますから、そこが中心になってまずやるのかなと。お金の面については、先ほど申し上げました地方交付税が、全く同じような形態ではないのですけれども、連携先の市町村にも来得る仕組みになっていますので、そういったものを使ってやっていくのかなというふうに考えています。

○平本会長　ありがとうございます。よろしいですか。

○沼田構成員　札幌市が当然いろいろかなりの部分かかわっていて、札幌市がヘッドというか中心的な事務局となっているというのはわかるのですけれども、きょう、記載されているこの中は、全て札幌市が上位だということではないわけです。先ほども出ました食、農業、観光のところは、特に札幌市ではなし得ないものが、ほかの周辺の市町村にもあるわけで

す。となると、札幌市が全部リーダーシップを発揮するということにはならないのではないかなと思うのです。なので、この運営、ちょっと組織の話になるのですけれども、そこは十分留意されるかとは思うのですけれども、ぜひ他のところも尊重していっていただきたいと思います。

○平本会長　ありがとうございます。実は私も似たようなことを感想としては持っておりまして、これは総務省のもともとの建てつけが、中枢都市が一つあって、そこの下に周辺がぶら下がって都市圏をつくるという構想になっており、しかも中心都市にたくさんの交付金がいき、周辺はあまり多くない額の交付金が支給されるという仕組みになっているので、いたし方ないのですけれども、そうすると、中枢都市を中心としたスター型というか、そういうようなネットワークになりがちなのですけれども、本当はホイール型のネットワークになっていないと、中枢都市圏の強みというのは出てこない可能性が高いと思うのです。ですので、札幌市に全てを期待することは期待過剰なのですけれども、そういった札幌を中核としたスター型のネットワークにならないような補完的なホイールの仕組み、ないしはスポークの先にある自治体間でのつながりというものが促進されるような施策というのが必要であると同時に、そういったことに対する、これはマネジメントというよりはガバナンスに近いような概念ではないかと思うのですけれども、そういったことが恐らくうまく機能して、初めて中枢都市圏の強みが出てくるのではなかろうかというふうに思っているので、今、沼田さんの御指摘というのは、私も同じように感じているところです。市にないものねだりの部分もあるのですが、そういったことを御留意いただけると、いい中枢都市圏になるのだろうなというふうに思っております。

他にいかがでございましょうか。どうぞ。

○町田構成員　福祉の部分なのですけれども、11 ページになりますが、福祉で二つほど出ていまして、17 番と 18 番。17 番のところは、保育士不足対策に関する検討というふうに書いてあるのですが、福祉の分野でいきますと、不足しているのは当然保育士だけではなくて、むしろ介護職員さんの不足というのは、将来的にもかなり懸念される状況にありますので、この部分に関する検討というような項目があってもいいのではないのかなというのは思っておりました。それが１つ。

もう１つなのですけれども、18 番は生活困窮者自立支援法の関連で、情報の共有等を行うというふうに書いてありまして、これはこれで必要だという判断で加えられたことなのかなとは思っております。

ただ、地域の中で、これから地域社会においては、地域共生社会の実現というようなものが、国のほうもこれから押し進めていくというところで、福祉の世界では大きなスローガンとなっておりますので、この地域共生社会の実現に向けた各市町村の取組なども情報共有したりですとか、情報交換したりというような必要も出てくるのではないのかなという、２点ほどありましたので、提案させていただきました。

○平本会長　ありがとうございます　お立場上、非常に重要な指摘だと思いますが、何かこれはコメントございますか。特に介護士等の不足も施策に盛り込めないだろうかというようなことですが。

○事務局（石田広域連携担当課長）　今現在、保育士だけの取組を書いていますが、これから圏域が形成されて、協議が進んでいく中で、当然、介護人材も不足しているというところは我々も認識しておりますので、そういった検討を発展させていく中で、そういったところも市町村と議論させていただきたいなと思っております。

地域共生社会の実現というスローガン、最終的にはこういうものに向かって連携を深めて、協議を進めていく中でやっていければなというふうに考えております。

○平本会長　ありがとうございました。

○岡本構成員　２点ほど御検討いただければなと思います。１つは、13 ページになりますけれども、職員の交流についてですが、やはりこれだけ広い圏域になってきますと、札幌市さんのような都市を中心とした自治体と、それから少し離れた都会ではない自治体さんと、かなり温度差はあるのかなと思います。そのあたりの解消のため、人事交流を進めていただいて、お互いの課題を身をもって知っていただくということが有効になるのかなと思います。それぞれの課題を認識することができますし、お互い顔の見える関係ができれば、将来このビジョンを達成していく、事業を推進していく過程においても、そのネットワークづくりという面で非常にプラスになると思いますので、この点も検討いただきたいと思います。ただ、それぞれの自治体さんにおいて給与面ですとか処遇面ですとか、課題は多々あろうかと思います。その点もクリアしながら、各トップのお考えをそのような方向に持っていっていただきながらやっていただくのが人材育成という面でも有効かなと思います。

それから１２ページになりますけれどもエネルギーの点についてですが、札幌圏域では洋上風力発電ですとか、また、バイオマスを利用した発電ですとか、水素ステーション活用とか、今でもよく進んでおりますけれども、その秘めたる能力、ポテンシャル、これはかなりのものだと思います。これらをぜひ自給自足的に、可能であれば地産地消という形で進めて

いっていただければ、いざ災害等が起こった場合も、いち早く復旧につなげることができると思いますので、そういうエネルギーの多様な組み合わせという点でも御検討いただければよろしいのかと思います。

○平本会長　ありがとうございます。これもコメントがございましたら。

○事務局（芝井政策企画部長）

ありがとうございます。人事交流については、まさにおっしゃるとおりで、私も実は他の団体を含めて２回ほど人事交流でほかの団体に出たことがありますけれども、とてもお互いの立場を知るということは大事だと思いますので、今後、我々もそういうことに努めていきたいと思っております。

それから、エネルギー関係につきましても、今は、ここに書いているのは水素のサプライチェーンの検討が具体的に書かれていることの一つなのですけれども、御指摘のあったバイオマスですとか、あらゆる資源を検討していきたいなと思います。

○平本会長　どうもありがとうございます。

○黒田構成員　９ページの観光のところをちょっと触れさせてください。これは、よく整理されていて、書かれた内容はそのとおりだと思うのですが、一言で言うと、５年後だとか１０年後のあるべき姿が見えないのです。こういうことから始めようというのは間違っていないとは思うのですけれども、何を目指すのかというのが見えない中で、検討しても調査しても、結局、報告書だけでそのままではないかという、何か危惧をちょっと感じます。ですので、どういうスタイル、観光というのはどういう形になっていればいいのかという、ある程度着地点をどこかに入れながら進めていくのがいいのではないかなと。そうしていただければなというふうに思います。

例えば、私どもが注目しているのは、特に訪日インバウンドの受け入れ整備でいきますと、キャッシュレスなのです。つまりいろいろな方々が来て、お金をたくさん使っていただく、消費が増えるということで、いわゆる決済という面ではいい面があると思いますし、ここに書かれています観光客の動態調査も、実はいろいろなところがキャッシュレスになれば、動態調査をとれるデータがとれるはずなのです。そうすると、言い方は悪いですけれども、いちいち調査会社に、例えば1,000人のサンプルをとるとか、そういうことをやらなくてもとれるようになるので、できればキャッシュレスというのを入り口にして動態調査もやられれば、観光の売り上げ増を図っていくとか、全国的にもあまりそういうとんがった地域はないような気がしますので、できれば先進的な地域になるように、何か手を打っていただけ

ればいいかなと思っております。

これから、来年のラグビーのワールドカップですとか、G20 の観光大臣サミットですとか、その後に東京オリンピックが来る、あるいは新幹線が来る、もしかしたら札幌オリンピックが来るかもしれない。これは大きなイベントが来る、これからの５年、10 年は、観光にとってみると、いわゆる黄金の時間なのです。黄金の時間というのは、何かがとても大きく変わるチャンスでもある、変わるきっかけになるわけで、そのタイミングを逃さないような、せっかくの連携ですから、それを踏まえた検討をしていただければと思います。事業化へ落とし込むというのは難しいかもしれないのですけれども、それは今後、協議会等でいろいろと検討していただければと思っています。

○平本会長　ありがとうございます。いかがでしょうか。

○事務局（芝井政策企画部長）　ありがとうございます。確かに今現在は、５年後、10 年後をちょっと書き込めていないということがございます。いただいたキャッシュレスによる動態調査、大変重要な取組だと思いますので、連携して今後取り組んでいきたいと思います。

それから、このビジョン自体は、毎年中身を更新していって、充実させていこうと思っておりますので、今ここに観光関係で書かれているのは、調査したり、モデルコースとかつくったりということが今書かれていますけれど、いただいた御意見も踏まえて具体化していきたいなと思います。

○平本会長　ありがとうございます。

○中原構成員　私の方からは質問も含め４つほどです。まず１点目です。非常によく検討されたシナリオであると思います。事前に説明を受けたとき、何となく文字が多くて、ややインパクトが不足しているのではないかと申し上げてしまいましたが、このあたりは印象の問題であると思います。よくよく見ますと、この都市圏の地域性というものがさまざまなキーワードとして入っているのですが、それがなかなか目立ちにくくなっています。例えば８ページには、この素案の中では具体的な絵がありますが、やはり情報が足りないような気がします。ここに、その背景となっている事柄や、この圏域ならではの独自性、地域性などのキーワードをもっと記載した方がよいと思います。14 ページも先ほど御指摘がありましたように、ただ表で示すのではなくて、各市町村の強みの部分も上手く盛り込んだ表現になっていると、初めて見る方でも理解が深まると思います。そういう意味で、もう少しビジュアルな表現を加えていただくと、さらによくなるのではないかというのが１点目でございます。

２点目は、今回、時間軸というものがまだ入っていないことです。今後、それを検討され

ていくことになると思いますけれども、2040 年を目標とされているのであれば、2040 年に全部ができ上がるということではなくて、事業の中でも、結構早く進んでいくものもあれば、最初は進捗が遅くても徐々にでき上がっていくものもあると思います。全体の事業のプログラムというものが時間軸で明示されると、さらによくなると思います。前回、資料としていただきました「岡山連携中枢都市圏ビジョン」の中では、かなり具体的に評価指標の基準値や目標値のようなものが明記されていたようです。そこまで明記する必要があるのかどうかはわかりませんけれども、時間軸や優先順位が少し見えるとよろしいと思います。

３点目は質問です。プロジェクトについては、かなり盛りだくさんの感じもします。この中には既に検討が始まっているものと、これから検討がされるものがあるかと思います。札幌市さんや他の市町村での検討状況についてお尋ねしたいと思います。

それから、４点目です。先ほど札幌の人口構成の偏りの部分の御指摘がありました。本日の資料集の 11 ページです。これは、この札幌圏あるいは札幌市でも同様と思うのですが、５歳階級別の人口移動の状況では、20 代のところで多くが域外に出てしまっています。札幌市は女性が多い都市ということでも非常に特徴がありますが、どこで女性が多くなるかといいますと、実は 10 代までは男性の方が多いのですが、20 代になって、大学を卒業して、域外に出ていってしまうことで逆転します。私も元々大学は工学部出身でよくわかっておりますが、理工系の学生の就職先がなかなか地元にありません。また、私はデザインを教えている大学にいるわけですけれども、デザイン系であっても、建設系、情報系であれば地元に就職先がありますが、プロダクトデザインのように、家電製品とか自動車デザインということになると、なかなか地場に大手製造業がないので、どうしても首都圏等に出ていかざるを得ないということが、この背景に関係があるという感じがするわけです。

そういう意味では、理工系学生が就職できるような産業を育成するということとあわせて、Ｕターン、Ｉターンも非常に大事なことです。私の同期生なども、30 代後半から 40 代にかけてＵターンで戻ってきた人もかなりいました。一方で、戻ってきたくても、戻ってこれない人もいます。これは情報がないというだけではなくて、いろいろと築いたネットワークが切れてしまうというところもネックにあるのです。ですから、そのネットワークにかかわるような情報もあわせて提供すると、Ｕターン、Ｉターンがもっと活性化するように思います。

○平本会長　どうもありがとうございます。２点目の時間軸のことについては、私も同じ感想を持っておりまして、今回のやつは一番最初のビジョンですので、割りとフラットにいろ

いろなことが書かれていると思うのです。ところが、実際に事業を行っていくときには、まず最初にこれをやると、それに付随して次にこれが効いてくるというような、そういう順番というのは必ずあると思うのです。それは今、中原先生が１点目におっしゃった、まとまっているけれども、文字が多過ぎてインパクトに欠けるということとも関わりがありまして、ですので、今回の我々のタスクとして、そこまではできないにしても、毎年中身が改定されるということであるならば、徐々にそういう有機的な関係というのが見えてきて、それが明らかになっていくということが多分重要なのかなというふうに思いました。

ちょっと追加で発言させていただきましたが、何かコメントございましたら。

○事務局（芝井政策企画部長）　ありがとうございます。インパクト不足という御指摘や、先ほどの強みがわかるようにというようなことについては、今後、資料や、今後作っていくビジョンそのものの中でわかりやすく示していきたいと思います。

さらに、時間軸というお話についても、今回は、おっしゃるとおり、事業の時間軸も何もない、事業をやるよというものの羅列なので、最終的なビジョンには可能な限り時間軸のことも考慮していきたいと思いますので、次回のときにどこまでお示しできるか、頑張っていきたいと思います。

それから、プロジェクトの、今まで検討しているものと、それからこれから検討するものというお話がありましたけれども、まだ完全にここの事業を決めきったわけではないのですけれども、大枠でいうと、新規に始めるものと、それから拡充するもの、例えば今までは札幌市単独でやっていたものを、全市町村、あるいは複数の市町村に拡充するもの、それから、今まで札幌広域圏組合という一部事務組合でやっていたものを、基本的には継承していくもの、そういったようなものが大くくりであると思いますが、今日はその整理をしておりませんので、次回、今日お示ししたものを、そういう分類を一定程度してお示しをしたいなと思います。

それから、Ｕ・Ｉターンの重要性については、我々も大変重要だと思っておりまして、現在、首都圏の大学さんと連携協定なりを結んで、情報提供、あるいは情報をいただいたりしているので、そういったところはさらに拡充していきたいと思いますし、そういったことも今後、表現上も盛り込めるのかといったことも考えていきたいと思います。以上であります。

○平本会長　どうもありがとうございました。

○高橋構成員　農業の分野で１つだけお願いといいますか、お話しさせていただきますけれ

ども、中にも出てまいりますが、最先端の情報技術ということで、ＩＣＴとかＡＩも打ち出しているということであります。先生の意見にもありましたけれども、札幌市域の大学、研究機関が集中してあるということであります。農業の分野においては、非常に成長分野といいますか、非常に注目されているところであります。周辺にいわゆる実証できる地域、農村地域を抱えているということでありますので、我々としても劇的に進化していくのではないか、目玉になる可能性が高い、というふうに感じているところなので、ぜひこの部分を大きな取組の一つに入れていただければというふうに考えているところであります。

○平本会長　ありがとうございます。恐らく目玉になり得る要素だと思います。何か追加でございますか。お願いします。

○事務局（石田広域連携担当課長）

農業のＩＣＴ化といいますか高度化につきましては、今現在、取組としては盛り込んではいないのですが、今後、検討していきたいと思いますので、またその際は御助言いただければと思います。よろしくお願いします。

○平本会長　どうもありがとうございます。

○三戸部構成員　全体的な印象としては、非常に丁寧に分析されて、丁寧に整理されていると感じています。そうした中で、我々交通という分野で言いますと、非常に難しいのですが、先ほど分析の中でありますとおり、非常に感応度係数の高い分野ですので、こうしたビジョンが推進されることによって、人の動き、ものの動きが実際どう変わっていくのかというところが、もう少し比較的にわかると、我々の分野にどう対応していくかということがわかりやすいのかなというところを印象として感じました。

これも既に皆さんお話しした意見とかぶるのですが、例えば 11 ページの圏域の強みを整理された表がございますけれども、この圏域の強み、食、農業、観光という整理、もちろんそれはあるとは思うのですが、となると、なかなか北海道はどこへ行ってもそういったものが強みとしてなるということなので、札幌圏だからこその強みというのがもう少し、先ほど酒井構成員からもありましたけれども、表現されるとわかりやすいのかなという印象を受けました。今のは 14 ページのお話ですね。

それと、皆さんのお話にもありましたが、こういったビジョンをこれから推進するに当たって、構想段階から若い方々とか女性の方の視点がもっと反映されていたほうが、今後、推進するに当たって、より実効性を高めていけるかなといった印象を受けています。

○平本会長

どうもありがとうございます。特に２点目の、若い方、女性、場合によっては外国の方などというのもそうかもしれませんけれども、そういった方の目線というのも取り入れるということは重要な御指摘ではないかと思います。いかがでございましょうか。

○事務局（芝井政策企画部長）

ありがとうございます。今回の取組の中にも、学生さんを巻き込んでいろいろ提言してもらったりとか、むしろ札幌にいる学生さんをほかに地域に出ていってもらうとか、そういったようなことを考えたりとか、女性の活躍の視点から、さまざまなイベントを各市町村でやっていくようなことも考えておりますので、そうした機会をとらえて、このビジョンそのもの、連携そのものに対する意見などもいただいていきたいなと思います。

強みの表現については、また今後、宿題として考えていきたいと思います。

○平本会長　どうもありがとうございました。今日、御参加の構成メンバーの皆さん、１回ずつは御発言いただきましたけれども、ここまでの御発言を踏まえまして、何か追加で御発言いただくとか、あるいは何か御発言に対するコメントや補足等がございましたらばいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○津呂構成員　発言というよりも質問、いいですか。

○平本会長　どうぞ、もちろん質問でも結構です。

○津呂構成員　今回のビジョンに、食、農業という形でビジョンの掲載事業名が、こちらは強みということで載っていますけれども、中には石狩市さんのように海があるまち、結局は漁業のほうはあまり影響力がないよという、これはグラフに出ていますけれども、また、ほかの地域では、例えば長沼さん、林業が、こちらの方でいけば感応度係数で出てきていると。やはり農業だけピックアップしているのかなという、個人的な考え方です。やはり農林水産、確かに水産はこちらの管内は弱いのかもしれませんけれども、それではそれを育てていこうと。林業も、それではそれを育てていこうという気概もあって、１次産業を基盤として、２次産業、３次産業、ひいてはＩｏＴで６次産業というような、一連のそれぞれの産業の強みを持ってきて、１つの圏域という形になれば本当はいいのかなという感じがしていますので、このへん、農業が強いから、漁業、林業を切り捨てたような感じに私は見えてしまったものですから、その辺の産業育成をどうお考えになっているか、御示唆いただければありがたいなと思います。

事務局（芝井政策企画部長）

ありがとうございます。決して切り捨てているとか、そういうことは全く考えてございま

せんで、ただ、確かに関連する事業、ダイレクトにはないと思いますので、そこは関係市町村の意見を聞きながら、徐々に議論を深めて、必要な取組を取り組んでいきたいと思っております。以上であります。

○平本会長　ありがとうございます。他にはいかがですか。

私、１つ、先ほど黒田さんも、将来像と着地点が意外と見えにくいのではないかという御指摘をされたのですけれども、今回の資料ですと３ページ目に、まさに中長期的な将来像と書いてあるのですが、これ、実を言うと、別にさっぽろ中枢連携都市圏ではなくてもいいのですよね、この項目は。ですので、この将来像が具体的に地域の強みとか地域の資源の何があるからこの将来像に結びつくのかということがきちっとここにないと、施策はいっぱいあるのです。これはいろいろな、それこそ総務省をはじめとしたいろいろな中央から下りてくるさまざまなものも含めて、施策はいっぱいあるのだけれども、そうすると施策が単独で動いてしまうだけになってしまう。だから、中長期的な将来像と、地域の持っている魅力であるとか強みであるとか資源であるとかというのがうまく結びついて、初めて本当の意味での将来像になるのではないのかなというふうに思っておりまして、そこら辺のところについては、ぜひ今回のビジョンの中に反映していただけることが有意義なのではないかというふうに思っております。

○福井構成員　観光の分野でまず１つあるのが、今回の地震の際に、外国から来た方、あるいは国内から来た方が路頭に迷ったというところが大きく報道され、危険だという印象を強くしてしまった。災害が少ないということで今まできましたが、新聞にも出ていましたけれども、災害に強いまち、地域をつくっていくというメッセージを発信していく必要が、今回のビジョンではあるのかと感じています。

それともう１つ、先ほどキャッシュレスのお話がありましたけれども、今回の消費税増税にあわせて、キャッシュレスの導入によってポイント還元という話が出てきておりまして、これから避けて通れない形になります。これを、さっぽろ圏で率先してやっていきますというメッセージも発信していけると、これは当然、地元に対してもありますけれども、やはり海外に対して、国内に対して、メッセージ性の強い施策になると思いますので、できれば御検討いただきたいですし、もう少し強く打ち出していただきたいと思います。

○平本会長　ありがとうございます。恐らくこれは先ほどの時系列の話とも少し関連するのですけれども、いろいろな施策が全部同じ強さというか、同じような、平坦に書かれているのですけれども、その中で、まず最初にこれをやるとインパクトが出てくるよ、そのインパ

クト、波及効果のもとで、次のこの手を打つと、より効果があるよというような、多分、そういうことが見えてくるといいのだと思うのです。今の福井さんの御指摘も、恐らくそういうことにかかわるのではなかろうかと思うのですけれども、これは多分、恐らくは重要なことだと思うのです、ビジョンを作る上では。ですので、ぜひぜひ御検討いただきたいと思います。

○吉岡構成員　実は意見というかあれなのですけれども、私もいつも上司に言われて困ることがありまして、作った資料を、誰が最終的に読むのだというのを非常に言われるものですから、どうしても最近はいろいろパワポが発達して見やすいものにはなるのですけれども、どこかに、何種類かつくらなければならなくなってしまうかもしれませんが、要するに行政であるとか、こういう主要な関係者の方々が見るためのものか、それとも、当然ながらプレーヤーとなっていく住民の方々が見るためのものかというのが、もし視点として入れられるものであれば、ぜひお願いしたいと思います。

○平本会長　ありがとうございます。それ、実はとても大事なことなのですよね。誰に向けて何をつくるかということがはっきりしないものというのは、誰が見てもぴんとこないという可能性があるので、なかなかこれはお手間をかけることになりますけれども、ぜひ誰のための資料か、誰に何を伝えたいのかということも御検討いただければと思います。

それから、そのときに、やはり連携中枢都市圏なので、加わる自治体、市町村の方々に対してきちっと、これが札幌だけが得する話ではなくて、都市圏として発展していくためのビジョンであるのだよということがわかるようなつくりになっていないと意味がないと思いますので、要望ばかりですが、そこら辺もぜひお願いしたいと思います。

○李副会長　今の話に関連するのですけれども、実は私、小樽で、小樽とその周辺の市町村の連携の打ち合わせをやっているのですけれども、その会議でよくわかったのが、なかなか小樽を中心とすると、隣の余市とか仁木町とか積丹町の方たちはほとんどしゃべれないのです。要は、中心はやっぱり小樽で、金も持っているし、いろいろなことが、多分話してもしようがないだろうみたいな雰囲気も醸し出されつつ、非常に会議運営に困って、ある日、地域の方、小樽以外の方に、とりあえず発言をさせて、しかも行政の方だけではなくて、民間の方にも来ていただいて、いろいろな本音で、フリートークみたいな形でやって、あとは資料をまとめて整理したら、結構いろいろな意見が出たのです。

なので、これも多分、さっき沼田委員も同じことをおっしゃったと思うのですけれども、やっぱり札幌が取りまとめをするとなれば、少ない補助金でなかなかできないのだけれど

も、札幌市が少し援助してくれるのだったらここまでやろうというようなことでしか、頭の中に入らないのかなという気がするので、せっかくこういうのをやるのだったら、やっぱり弱者ではないですけれども、周辺の市町村で困っていることとか、あるいは今言ったように、本当の強みはどこを生かしたらいいのかみたいな話をぜひ盛り込んでいただいて、そこを中心にもっと、さっきから出ているように、時間軸で、まず何を先に取り組んでいっていいのかみたいな話をできればしてほしいなというふうに思います。

○平本会長　ありがとうございます。これはとても大事な御指摘だと思います。１回目のときにもちらっと申しましたけれども、大札幌市をつくるという話ではないのですよね。やはり個々の市町村があって、個々の市町村の強みや個性を生かしながらも連携するということがポイントなので、そこのところがきちっと参加する市町村の皆さんにわかっていただけるようなビジョンでないと、機能しないというか、絵に描いた餅に終わってしまうのだろうと思いますので、お願いばかりですけれども、そこはぜひお願いいたします。

それでは、大体予定していた時間になりましたので、今日、皆様から大変建設的で有意義な御意見をたくさんいただきまして、次回の懇談会に向けまして、事務局の方でまた御検討いただいて、今回の御意見が反映されるような形で次回の懇談会を迎えられるといいなというふうに考えております。

それでは、事務局からの連絡事項がございましたらお願いしたいと思います。

○事務局（芝井政策企画部長）

きょうは大変貴重な御意見、ありがとうございました。

今、会長からお話ありましたとおり、いただいた意見を踏まえて、ビジョン懇談会、次回に向けてビジョン案を作成して、お諮りしたいと思います。

スケジュールのところにもありましたけれども、これから我々、連携中枢都市宣言を皮切りにして、札幌市、あるいは関係市町村の議会議論などもやっていかないといけないということになりますので、そうしたところの意見も踏まえて、また皆様方にいろいろなものを御提示して、また議論していただければなというふうに思っております。

本日はどうもありがとうございました。

また次回、よろしくお願いいたします。

○平本会長

どうもありがとうございました。

以　　上

※　重複した言葉遣いや、明らかな言い直しや誤りがあったもの等を整理した上で作成しています（札幌市まちづくり政策局政策企画部企画課（広域連携担当））。